



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 uniwish11号 (2014年2月)

佐賀県佐賀市水ヶ江4丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00

E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
FBページ <http://www.facebook.com/unicef.saga>



シリア

ユニセフ・シリア事務所 園田教育専門官の現地報告会 「子どもたちへの教育は、平和構築の第一歩」

【2014年1月28日 東京発】

3年近くにわたって紛争が続くシリア。現在人口のおよそ2人にひとり、935万人が人道支援を必要としています。そのうち430万人は18歳以下の子どもたちです。

紛争はシリアの教育に大きな影を落としています。紛争前、初等教育純就学率99%を誇り、中東で教育大国として名を馳せていたシリア。しかし、紛争でその状況は一変しました。5校に1校は学校としての機能を果たしておらず、多くの子どもたちが教育の機会を失っています。

1月28日(火)、シリア国内のユニセフ現地事務所教育専門官として活躍する園田智也さんが、シリアの子どもたちや教育の現状に関して最新の様子を報告してくださいました。



◎ 日本ユニセフ協会
シリアの教育支援で配られているユニセフ・バッグを手にする園田さん。

破壊しか知らない子どもたち

建物やコミュニティ、家族がいつも簡単に破壊され、人の命が簡単になくなってしまいう環境で暮らしているシリアの子どもたち。園田さんは、「教育機会を持っていないことで、周りの大人たちを真似し、武器を持って相手を傷つけ破壊することしか知らない子どもたちが増えていくと、文字通り『失われた世代』になってしまう危険性があります」と、教育を受けられないまま育つ子どもたちの将来を危惧し、紛争下に生きる子どもたちの苦境を語ります。

紛争下だからこそ、教育を

爆撃音を日常的に耳にし、恐ろしい光景を目にしているシリアの子どもたち。「人道援助の現場では、人の命に直結する水、食糧、シェルターといった分野が最優先されがちです。しかし実際には、子どもたちは身体的にも精神的にも紛争の影響を受けています」と、子どもたちが描いた、紛争下の辛い経験や心の傷が色濃く映し出される絵を見せながら、園田さんは語ります。「一番何が重要かという点、紛争前の日常生活をいかに取り戻すか。その日常生活というのは、本当に当たり前のことで、例えば学校に行き安全な場所で先生のもとで勉強するとか、休み時間に一緒に友達と遊ぶという生活環境をいかに取り戻すか」と、紛争下では見過ごされてしまいがちな教育の必要性を訴えます。また、学校は子どもたちの安全を確保するところでもあります。学校に通えない子どもたちが、生活のためにお菓子を売ったりしているところを、反体制派の戦闘員に勧誘されるケースもあるといいます。

「失われた世代」にしないために

「子どもたちにとって、子ども時代は1回限りです」

たった一度しかない子ども時代に、紛争で大切な人を失うという苦しみを味わうのではなく、子どもらしい日常を過ごすことができるように生活環境を整えてあげることが重要だと園田さんは訴えます。

「子どもたちが相手の立場に立って物事を考えたり、対話を通じ平和に向かって自分たちで社会を作っていく、そういった力を支えていく教育支援が、とても今求められていると思います。それが、失われた世代にならないための第一歩、平和構築の第一歩と考えています」

長引く紛争下のシリアでは、子どもたちを『失われた世代』にしないために、長期的な教育や心のケアの支援が必要とされています。次世代を担う子どもたちが自分たちの持つ可能性を十分伸ばし、明るい未来を築くことができるよう、ユニセフはこれからも支援を続けていきます。

【資料提供】日本ユニセフ協会

台風から3カ月、55万人の子どもたちを最優先に支援

【2014年2月7日 マニラ発】

フィリピン中部を襲った巨大台風から3カ月。最も大きな被害を受けた地域は、子どもたちが日常を取り戻すための長い道のりを歩み始めました。

ユニセフとパートナー団体の支援は、最も大きな被害を受けた地域で支援活動を実施。これまでに、およそ42万人の子どもたちが、修理された学校や仮設の学校、テントの学校などに戻り、『箱の中の学校』や乳幼児キット、レクリエーションキットなどに含まれる備品を使って学校生活を送っています。「学校へ戻ろう」キャンペーンは、2014年6月からの新学年の開始に焦点を絞り、拡大し続けています。

しかし、多くの住民やコミュニティは依然として避難生活を送っているなど、大きな課題が存在します。生活インフラの損壊、生計手段の損失、デング熱やはしかなどへの感染リスクの増加を含め、取り組むべき課題は山積しています。



○ UNICEF Philippines/2014
ユニセフのテントの中で笑う子どもたち

2013年11月8日、台風30号はフィリピン中央部の広範に渡って甚大な被害を与え、子ども590万人を含む1,410万人が被災しました。ユニセフは地方自治体と被害状況の調査を行い、40の自治体（住民約134万人、うち子ども55万8,000人）を最優先に支援することを決定しました。

ユニセフ・フィリピン事務所の代表アンジェラ・キアーニーは、次のように述べました。

「我々は現在、最も大きな被害を受け厳しい状況におかれている子どもたちやコミュニティへの支援を続けています。取り組みには成果があるものの、子どもたちの権利を回復させ、子どもたちの潜在能力を満たす機会を取り戻すために、やるべきことはたくさんあります。緊急に必要とされる支援を行うため、ユニセフのスタッフは、24時間体制で職務に当たっています。」

フィリピン政府主導の下、人道支援団体や地方自治体と協力して、ユニセフは最も被害が大きかった地域へ迅速に支援を届ける体制を作り上げました。

「すべての子どものニーズと権利を満たせるよう、支援活動は日々、拡大しています。支援活動は被災からの復興だけではなく、将来も視野に入れたものです。原状回復ではなく、再建されるすべてのものが、今後のあらゆる災難に耐えられるよう、災害により強くよりよいものにしていきます」と、キアーニー代表は述べています。

ユニセフの緊急支援計画は、緊急支援から長期の復興支援計画へと移行しています。具体的には、子どものニーズを含む国と地域の災害リスク対応とマネジメント計画の立案など、国と地域の機関の能力強化のための支援が行われます。

【資料提供】日本ユニセフ協会



○ UNICEF/NYHQ2013-1222/JEFFREY MAITEM
レイテ島に設置された
「子どもにやさしいテント」



○ UNICEF Philippines/2014/Jeffrey Maitem
タクロバンの避難センターで簡易トイレを使う
子どもたち。ユニセフの支援により設置されまし
た。

かつどうほうこく



- 11月30日（土） ユニセフ出前講座
SCHOOL FOR SCHOOL ～ソフトトイ・キャンペーンによるユニセフ支援～
（IKEA福岡新宮店）

主催：IKEA&こども国連

協力：日本ユニセフ協会 セーブ・ザ・チルドレン

■すべての子どもが教育を受けられるように」の願いのもと、IKEAが2003年からスタートさせているのが「ソフトトイ・キャンペーン」です。ソフトトイ・キャンペーン期間中に、ソフトトイ1つまたは絵本を1冊お買い上げいただくごとに、1ユーロがユニセフとセーブ・ザ・チルドレンの教育プロジェクトに半分ずつ寄付されます。

■「SCHOOL FOR SCHOOL」は、日本の子どもたち自身が主役になって、世界の子どもたちの教育問題を考える学びの場です。参加した中・高校生が、世界にある教育問題に関する様々なデータを読み取り（ユニセフの「世界子供白書2013」より）、それをIKEAの様々な商品を使ってインフォグラフィックス作品で表現しポスターにしました。作品制作を通して、子どもたちは世界の教育問題について世の中に「伝える側」となり、教育支援の輪に加わることができます。

■佐賀県ユニセフ協会は制作のための事前学習として、学校に行くことができない子どもたちやその理由・教育を受けることの大切さ・子どもにやさしい学校の建設等についてお話をしました。



- 12月8日（日） 第35回ユニセフハンド・イン・ハンド募金キャンペーン
（ゆめタウン佐賀店・三日月バニーズ店・イオンスーパーセンター佐賀店）
- 12月9日（月） 募金贈呈式 佐賀市立城西中学校より（事務所）
- 12月15日（日） 第35回ユニセフハンド・イン・ハンド募金キャンペーン
（イオン佐賀大和店・ホームワイド佐賀大和店・イオン上峰ショッピングセンター・佐賀玉屋）
- 12月19日（月） 募金贈呈式 弘道国際学園より（事務所）
- 12月22日（日） 第35回ユニセフハンド・イン・ハンド募金キャンペーン
（スーパーモリナガ鹿島店、Aコープララベル店）
- 1月14日（火） ユニセフ出前授業「私たちにできるボランティア」（大木町立大溝小学校）
- 1月17日（金） ユニセフ出前授業「ユニセフのはたらき」（大川市立大川小学校）
- 1月21日（火） 募金贈呈式 若築建設株式会社より（事務所）
- 1月25日（土） ユニセフパネル展・ユニセフカードとギフトの頒布（コープさが新栄店）
- 1月31日（金） ユニセフ出前授業「ユニセフの活動を知り、自分たちにできることを考えよう」
（大木町立木佐木小学校）
- 2月1日（土） トヨタ紡織九州レッドトルネード試合会場にてユニセフ募金活動&カードとギフト頒布
（神埼中央公園）
- 2月15日（土） 佐賀県ユニセフ協会理事会／評議員会（アバンセ）
- 2月18日（火） 佐賀県立ろう学校中学部 事務所来訪
- 2月19日（水） ユニセフ出前授業「ユニセフのはたらき」（大川市立道海島小学校）
- 2月22日（土） トヨタ紡織九州レッドトルネード試合会場にてユニセフ募金活動&カードとギフト頒布
（神埼中央公園）

賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください

☆公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもたちの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
 2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
 3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ❖ご協力いただける方は、佐賀県ユニセフ協会までご連絡ください。

第35回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン

テーマ: 栄養不良から小さな命を守ろう

2013年度のハンド・イン・ハンド街頭募金活動は3日間9会場で実施しました。3日間ともハンド日和に恵まれました。

幼稚園児から小・中・高校生と引率の先生方、保護者の皆様、県協会からのお知らせをご覧になって応援に来てくださった方、ボーイスカウト、地域ボランティアの皆様等々、総勢220人にもものぼるボランティアの皆様がご参加くださいました。

ボランティアの皆様は、「ユニセフ募金にご協力をお願いしま〜す!」「2円で一人の子どもに一年分のビタミンAをおくることができます!」「ありがとうございます!」と元気な声で協力を呼びかけました。ボランティアの皆様の熱い思いはお客様の心に届き、たくさんのご協力をいただきました。

ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアの皆様、募金箱に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くの皆様、快く会場をご提供くださった企業の皆様、本当にありがとうございました。

11月と12月の2ヶ月間にわたって実施した『第35回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン』では、個人・学校・団体・企業等、多くの皆様方からたくさんのご支援をいただき、募金総額は、

3,002,013円にもなりましたことをご報告申し上げます。まことにありがとうございました。

12月8日(日)

ゆめタウン佐賀店

元気なボーイスカウトの子どもたち、しっかりしたお兄さん、お姉さんの弘学館中学生徒会の皆さんなど説明の紙を見ながら呼びかけの言葉にもそれぞれ工夫して募金活動を展開しました。ゆめタウン佐賀店での募金は49,779円でした。

バニーズ三日月店

バニーズ三日月会場では、お客様の地域密着ならではの励ましもあって三日月中学校の生徒さんの募金呼びかけの声は途切れることがありませんでした。バニーズ三日月での募金は9,231円でした。

イオンスーパーセンター佐賀店

福岡県柳川市立矢ヶ部小学校・三橋中学校・柳城中学校の子どもたちや保護者の方・引率の先生方・教育委員会の方など35名のボランティアさんのご協力がありました。活動終了後、子どもたちから「募金箱にお金をいれてもらうことができうれしかったです。」との声が聞かれました。イオンスーパーセンター佐賀店での募金は34,543円でした。



12月15日(日)



イオン佐賀大和店 ホームワイド佐賀大和店

城北中学校と大和中学校の参加のおかげで、とても賑やかなハンドインハンドとなりました。イオン佐賀大和店およびホームワイド佐賀大和店での募金は48,471円でした。



イオン上峰ショッピングセンター



上峰小学校の5年生・6年生の子どもたち、引率先生とで実施しました。子どもたちも活動した達成感を味わったようで、寒くはありましたが充実した1時間のようでした。イオン上峰ショッピングセンターでの募金は29,793円でした。



佐賀玉屋前



佐賀玉屋前会場は例年ご協力くださる循誘校区ボランティアの皆様に加えて、今年は佐賀商業高校ボランティア部の皆様、当協会の機関誌をご覧になって駆けつけてくださった支援者の皆様など大勢のボランティアさんのご協力で実施しました。佐賀玉屋会場での募金額は43,428円でした。



12月22日(日)



スーパーモリナガ鹿島店、Aコープララベル店

ボーイスカウト鹿島一団の皆様がボランティアとしてご協力くださいました。活動開始前にリーダーからハンド・イン・ハンドのテーマ「栄養不良から小さな命を守ろう」についてのお話を聞いた後で二会場に分かれて募金活動に取り組みました。夕方の時間帯でしたのでお買い物帰りの多くのお客様が、ボランティアさんの元気な呼びかけに応じてくださっていました。スーパーモリナガ鹿島店とAコープララベル店での募金は52,030円でした。



今回もたくさんのご協力、ありがとうございました！



ユニセフって なあに？



～栄養不良～

栄養不良がもとで失われる、年間300万人の幼い命

世界では、年間660万人の子どもたちが5歳まで生きられません。その半数近く、およそ300万人の死に、栄養不良が関わっています。

乳幼児期に命を落とす子どもの2割から3割は、妊娠中の母親の栄養が足りないことによる低体重が原因です。

「1000日間の栄養支援」で子どもたちを守る！

胎児の時から栄養が足りず、低体重で生まれた赤ちゃんは、生まれてすぐに命の危険にさらされます。さらに、身体の基礎がつくられる胎児期から2歳までに栄養が不足すると、病気にかかりやすくなり、下痢や肺炎で死に至る割合も高くなるほか、脳の発達が妨げられる可能性が高まります。この重大な問題は「発育阻害」とよばれ、世界で1億6,200万人もの子どもたちを苦しめています。ユニセフは、胎児期から2歳までの最も大切な時期に、赤ちゃんが栄養不良に陥らないよう「1,000日間の栄養支援」に力を注いでいます。

おなかの中から2歳までの1000日間

👶 妊娠中 > 👶 誕生 > 👶 1歳 > 👶 2歳

生まれる前が肝心
新生児死亡の主な原因は、赤ちゃんがおなかの中で十分に成長できず低体重で生まれてくることです。元気な赤ちゃんが生まれるように、母親に葉酸や鉄分を補給します。



この時から、お母さんから十分な栄養をもらう必要があるのね。



母乳は天然のワクチン

母親の免疫をたっぷり含んだ母乳は、赤ちゃんにとって最高の栄養源。生まれたらすぐに授乳を始め、6カ月間は母乳のみで育てることで、生存率が14倍に高まります。

ビタミンAで病気を予防

ビタミンAの一滴には、子どもたちを感染症や失明から守る力があります。予防接種と一緒に半年に一度投与することで、子どもたちの抵抗力を維持します。



栄養不良を見逃さない！

定期的に体重などを測定して、栄養不良の子どもを早期発見、栄養補助食で治療します。適切な離乳食の与え方など、栄養や衛生の知識を広める保健員を育てることも重要です。

これが1000日間の栄養支援！



【資料提供：日本ユニセフ協会】

2013年度ハンド・イン・ハンド募金キャンペーンのテーマは「栄養不良」でした。佐賀での募金活動の様子は4、5ページをご覧ください。



ご支援
ありがとうございます

ボランティア循友様 トヨタ紡織九州株式会社レッドトルネード様 東脊振小学校様
 母子草様 浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様 ファミリーマート大和尼寺店様
 服部歯科様 グランデはがくれ様 モンテカルロ医大通り店様 矢山クリニック様
 モンテカルロ太陽本庄店様 佐賀リハビリテーション病院様 栗原内科消化器科医院様
 いちはら耳鼻咽喉科クリニック様 恵比寿鍼灸整骨院様 ふくしま薬局通小路店様
 みねまつ歯科様 内田整体院様 多布施クリニック様 佐賀ギター音楽院様
 ドゥース様 サンシャレー様 三瀬そば様 いっせい麺処様 西国御領風羅坊様
 ㈱北島様 合資会社東洋館様 えんぴつ館様 村岡屋卸本町店様 村岡屋駅南店様
 佐賀空港ターミナル様 レストランカンフォーラ様 ホンダパーツ西南佐賀営業所様
 山小屋ラーメン南佐賀店様 山小屋ラーメン川副店様 アルタ開成店様 菖蒲御膳様
 アルタ高木瀬店様 れすとらん志乃県庁店様 手打ちうどんそば夢心様 New・モア様
 ミックコスメティックプラザ城北様 ホテルニューオータニ佐賀様 H&M Fido EXCEL様
 H&M EXCEL W. E. N. S. 様 H&M EXCEL本庄店様 城西中学校様 佐賀清和中学校様
 矢ヶ部小学校様 弘堂国際学園様 国府団地花みずき通り様 めくもりの会様
 柳川市なんでんお助け隊様 楽庵様 ㈱みうつか様 佐賀市文化会館様
 DANCE STUDIO STATUS佐賀校様 TSUTAYA鍋島店様 バレエ&ビヨンド様 川崎自工様
 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様 旅館あけぼの様 団野法律事務所様
 大川小学校様 ボイスカウト佐賀第一団カブ・ビーバースカウト隊様
 若築建設株式会社様 最所法律事務所様
 ゆめタウン佐賀店様 バニーズ三日月店様 イオンスーパーセンター佐賀店様
 イオン佐賀大和店様 ホームワイド佐賀大和店様 イオン上峰ショッピングセンター様
 佐賀玉屋様 スーパーモリナガ鹿島店様 Aコープララベル様

市民活動プラザ様 大塚製薬(株)佐賀工場様 カイセイ薬局伊万里駅前店様
 佐賀大学スーパーネット様 本庄公民館様 富安造園様 さかい薬局様
 (公財)佐賀県国際交流協会様 佐賀新聞社様 佐賀県家庭クラブ連盟様
 国際ソロプチミスト佐賀西部様 ヘルスランチあららぎ様 千代田中部小学校様
 木佐木小学校様 基里小学校様 佐賀県立ろう学校中学部様 副島病院様



(2013年11月17日～2014年2月20日)

☆ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
 個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
 この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。

これからの予定 (2月20日現在)

- ☆2月26日 (水) ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク「ゆめ組」
(神崎市神崎小学校)
- ☆3月5日 (日) ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク「ほし組」
(神崎市神崎小学校)
- ☆3月6日 (木)～3月12日 (水)
ユニセフ写真展
「ハッピーバースデー 3. 11～あの日、被災地で生まれた11人の子どもたちと家族の物語～」
(佐賀市立図書館2階ロビーギャラリー)
- ☆3月9日 (日) ユニセフ講演会「東日本大震災から3年—今、私たちにできること—」
(佐賀市立図書館2階多目的ホール)
- ☆3月10日 (月)～3月14日 (金) 東日本大震災復興支援写真展 (仮称) (佐賀県庁)

※同封のチラシ
をご覧ください。



の仲間たち!

～佐賀県立総合看護学院1年 荒木 千尋さん～



幼い頃から「国際協力」の仕事に非常に興味を持っていました。青年海外協力隊として活動している親戚がいたからかもしれません。小学2年生の頃だったと思います、地雷の本を手にとったのです。“きらきら光るものを触っていたら手がなくなった”という文章を今でも忘れられません。同じころに原爆で黒焦げになった親子の本を読み、怖くともう二度と開けませんでした。次第に、いつかは私も海外で何か自分にできることをしたいと強く考えるようになっていました。そんな中で、私の選択した進路は看護師だったのです。

ただ、高校時代までは受験など日々の生活に追われて、なかなか行動にうつせませんでした。そして、やっと余裕ができたときにインターネットでボランティアの募集を検索していて、目に留まったのが佐賀県ユニセフ協会の街頭募金活動でした。昨年の5月、有田陶器市の募金活動に初めて参加したのです。しかし、ずっと立ち続けて大声で募金を呼びかけるのは楽なものではありませんでした。通り過ぎていく人々を力なく見ていると中学生くらいの子が「頑張ってください!」と声をかけて寄付を入れてくれました。ほんの一言だったのですが、それが嬉しかったこと…。

それから、暇を見つけてはお手伝いするようになり、昨年10月に行われた「ユニセフのつどい」では世界の遊びと日本の遊びを紹介するコーナーで、日本の遊びの紹介を担当させていただきました。“子どもたちなら何が興味を持ってくれるかな”と考えながら、カルタを準備。この時、看護学院の友人も手伝ってくれました。一人でボランティアをするのもいいのかもしれませんが、友人や仲間と一緒にすると喜びも一入でした。

私の夢は、看護師の資格を取得し、苦手な英語も勉強して、戦争や貧困で苦しんでいる海外の子どもたちも助けられるようになることです。これから、実習や就職、社会人…と私自身、忙しくなってくるかもしれません。しかし、ユニセフのスタッフのみなさんが「荒木さん、お願い」と言ってくれると嬉しいのです。これからも自分にできることを見つけて、できる限り続けていきたいと思えます。

(取材・高原陽子)

あ り が と う

20周年!



皆様のご支援、ご協力のおかげで、今年、佐賀県ユニセフ協会は設立20周年を迎えます。これまで支えてくださった皆様への感謝の気持ちを込めて、今年には20周年事業を開催予定です。

詳細のご案内につきましては、今しばらくお待ちくださいませ。今後とも引き続き、佐賀県ユニセフ協会をよろしくお願い致します。